



# データベースの活用に向けて

—新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を例に—



岩崎 加奈

## <抄録>

生徒による学習活動では、事前の調査も欠かせない。本校の図書館はその土台として、図書資料の充実だけでなく、アクセスのしやすさ等も意識しながら朝日新聞社の新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の環境整備を進めている。

## <キーワード>

学校図書館、新聞記事データベース、情報検索、環境整備、学内でのPR活動

## 1 はじめに

本校は、卒業後の28歳のときに社会で活躍できる女性を育てることを目指す「28project」を掲げ、その年齢から逆算した土台づくりとなる教育プログラムを展開している。その教育プログラムの中には、企業とコラボレーションする授業や、文化祭での起業体験、外部講師による特別講座等で社会と繋がる機会が多くあり、生徒の学問分野への興味や将来の仕事への興味関心を向上させている。

2014年度からスーパーグローバルハイスクールの指定を受けている。高校生全員が1人1台iPadを所持し、2017年度からは中学1年生も所持し、ICT教育にも力を入れている。

生徒は発表する機会も多く、その分自身の発表テーマに関する情報収集は欠かせない。現地調査やインタビュー、資料による調査等、その方法は多岐にわたる。図書館はその活動の土台として、紙の新聞や図書資料の充実だけでなく、「朝日けんさくくん」といったデータベース環境の整備も進めている。どんな場面でもすぐに調査できるよう、アクセスの手軽さを常に意識している。

## 2 学校図書館が用意する入り口

### (1) 学内は常にアクセス可能

図書館内には常時、蔵書検索用としてiPadが設置されている。設置された蔵書検索用iPadは、蔵書の検索をするだけでなく、新聞記事を検索する際にも活用されている。常にリンクが表示されており、アクセスしやすい。

図書館内のiPadに限らず、学内のネットワークであれば、教員は職員室、生徒は手持ちのiPadでもアクセスできる。

### (2) 発行物にQRコードを掲載

常にアクセスできる環境を整えながらも、用意しておくだけではあまり利用は伸びない。そこで、図書館が発行する案内に新聞記事データベースの案内を頻繁に載せ、生徒に向けてアピールしている。URLだけではなく、QRコードも載せ、利用しやすい環境を意識している。

今年度から高校生にターゲットを絞った案内も発行している。高校生は大学受験や、勉強に役立つ情報に対するアンテナが高い。しかし、「朝日けんさくくん」で新聞記事の検索ができることを知っていても、それが自分の学習にどのように活用できるかは知らないことが多い。そこで新聞記事の検索が、大学受験対策や、自身のスキルアップにどのように活用できるか事例を紹介しながらアピールするようにしている。

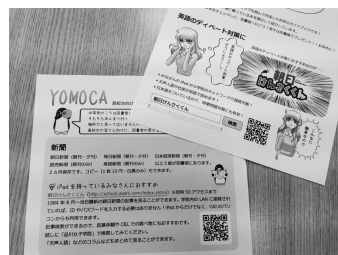


写真1 図書館からの発行物

### (3) iPadのホーム画面にショートカット

中学1年生は1人1台iPadを所持している。アプリ等の管理は学校が行っており、授業で使用するアプリを一斉に配信することが可能になっている。そのため、図書館から「朝日けんさくくん」のショートカットを全員に配信した。

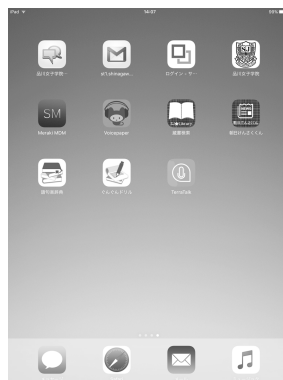


写真2 端末にあるショートカット

IWASAKI, Kana : 品川女子学院 (東京都品川区北品川3丁目3-12)

### 3 「朝日けんさくくん」の活用事例

#### (1) 社会科での活用

本校では、さまざまな場面で新聞を活用する機会があるが、中でも多くの取り組みを実施しているのが社会科である。中学3年生から高校2年生は、毎年「新聞記事発表」を社会科の授業内で1年間を通じて実施している。興味を持った記事についてクラス内でプレゼンテーションを行う。自分で記事を探し、それに関する調査を行い、記事に関する解説と、自分の意見を述べる。

テーマが決まっていない生徒は、紙の新聞記事を見ながら選ぶことも多いが、ある程度テーマが決まっている生徒は、データベースを活用することがある。テーマが決まっている生徒にとって、検索で一覧を出すことができることが非常に効率的で利用しやすいようである。

さらに、本校の社会科の定期試験では必ず時事問題が出題されており、普段からニュースに触れることが求められる。試験前は時事問題対策として「朝日けんさくくん」の利用が増える。中でも多いのは、ナビ検索での利用である。ナビ検索は紙面の分野ごとに一覧を表示させることができるため、ざっと見出しを読みたいときに適しているようだ。

#### (2) 英語ディベート対策に活用

本校では英語のディベートの授業を導入している。先日、高校2年生が英語のディベート対策として「朝日けんさくくん」を活用していた。

朝日新聞コラムのページには、和英対照の天声人語と社説が掲載されている。ディベートは日本語でも理解するのが難しいテーマになることも多いようで、日本語の紙面も調べつつ、英語での表現も学べることが活用しやすいようであった。



写真3 英語ディベート対策で調べる生徒

#### (3) 文化祭での調査

中学生は、文化祭の調査において「朝日けんさくくん」を使うことが多い。一学期からクラスごとにテーマを決

め、長期にわたって調査を行う。実際に足を運んで取材をしたり、資料を調べたり、1つのテーマをさまざまな切り口で調査し、研究発表をする。

昨年度の文化祭では、中学1年のあるクラスがタバコをテーマに調査を行った。事前に「朝日けんさくくん」を活用し、受動喫煙の問題に関する記事を掲示してポスター発表をした。



写真4 文化祭でのポスター発表の様子

#### (4) CBLにおける調査

高校2年生の家庭科の授業において「CBL (Challenged Based Learning)」というプログラムを実施している。自ら課題を見つけ調査・分析し、解決策を導き出す課題解決型の学習である。4～5人のグループで研究を進める。

今年度から、調査前に資料検索のレクチャーを行う時間を得ることになった。情報収集手段の1つとして新聞記事データベースを紹介し、生徒には効率よく情報収集できるようになってもらいたいと考えている。

### 4 今後の課題

本校では学年全員が同一のテーマを調べることも、グループ、クラス単位でそれぞれの興味・関心のあるテーマを、深く調べていく機会がとて多い。その際、新聞記事データベースは大変有効な手段である。学校図書館から生徒に向けて、できる限りの広報活動を行っているつもりだが、まだその存在を知らない生徒も多く、そういった生徒にどのように働きかけていくかが今後の課題である。いずれ、図書館の蔵書検索と新聞記事データベースを同一のインターフェイスで一括検索できるディスカバリーサービス等が実現することを期待する。